

(福)登豊会

岐南町・高齢福祉、保育

従業員数／男性41名 女性175名 計216名 ※令和4年11月現在

エクセレント POINT

- ①タブレット端末を導入し、事務作業を効率化
- ②保育業務から離れ、事務作業を行う「ノンコンタクトタイム」を導入
- ③企業主導型保育施設の運営や生協を活用した両立支援



タブレット端末で園児の様子を撮影する保育士の澤田紗英子さん。
専用アプリから保護者に送信ができる。

特別養護老人ホーム(特養)や認定こども園などを運営する登豊会では、結婚や出産後も安心して働き続けられるよう、長時間労働の是正に向けた環境づくりに力を入れている。ICTの活用はその柱。特養ではタブレット端末を導入し、介護記録の作成に役立てている。認定こども園でも各クラスに導入し、日誌の

作成や園児の登降園の管理のほか、お便りや写真の送付、保護者からの欠席連絡等も専用アプリ上で実現している。

また、保育補助者4人を配置したことでの担任を受け持つ保育士が日々に事務作業に集中して取り組む「ノンコンタクトタイム」や、休憩時間を確保できるようになった。保育士の澤田紗英子さんは「事務作業をスムーズに行えるようになり、園児と遊べる時間が増えた。持ち帰り仕事もなくなった」と笑顔を見せる。

2019年には家庭との両立支援のために企業主導型保育施設を開設。割引料金で優先的に利用できる点に惹かれて入職した職員もいる。また、生協との契約により、職場で生活用品を注文できる仕組みもあり、家の時短につながると利用する職員も多い。

特養で月1回行っている「朝からビュッフェ」と名付けたバイキング形式の朝食は、利用者100人中、約半数が参加している。職員が利用することもでき、部署を越えた職員間のコミュニケーションの場にもなっている。また、ビュッフェは事務職員も手伝うことから、「利用者との関わりは新鮮」、利用者からは「好きなものを選べて外食気分が楽しめる」と好評だ。



月1回の「朝からビュッフェ」は事務職員が中心となって「サポート」。利用者からは「外食気分が味わえる」と人気が高い。

ICTの活用で事務作業がスムーズに